

研究・調査報告書

報告書番号	担当
3 2 4	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
Alcohol consumption and transition of mild cognitive impairment to dementia. 軽度認知機能障害から認知症への進展とアルコール摂取との関連	
執筆者	
Xu G, Liu X, Yin Q, Zhu W, Zhang R, Fan X.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Psychiatry Clin Neurosci. 2009 Feb;63(1):43-9.	
キーワード	
アルコール、認知、認知症、予後、危険因子	
要 旨	
<p>目的： 軽度認知機能障害 (MCI : mild cognitive impairment) は認知症の前駆症である。アルコール摂取パターンは認知機能に影響を及ぼし、高齢者においてはその蓄積的な影響が重要なレベルにまで達する可能性がある。本研究では、アルコール摂取と認知症の危険との関係を MCI を有する高齢者コホートにおいて検証する。</p> <p>方法： 認知機能障害の疑われる患者をスクリーニングし、MCI の基準を満たす 176 人を選定した。ベースライン時に対象者本人あるいは介助者からの回答された自記式質問表を用い生涯および一日あたりアルコール摂取量の推定を行った。アルコール摂取状況により、禁酒者、軽・中等度飲酒者、大量飲酒者に分類した。ミニメンタルステート検査 (MMSE:Mini Mental State Examination) を用いて、認知機能全般の評価を定期的に行った。研究対象者は 2 年間追跡された。</p> <p>結果： ベースライン時に MCI と診断された 176 人の対象者のうち追跡期間中の経緯は以下のとおりであった。死亡 15 人 (8.5%)、追跡不能者 (lost to follow-up) 13 人 (7.4%)、認知症発症者 66 人 (37.5%)。MCI と診断を受けた 2 年後における MMSE の結果は、軽・中等度飲酒者が禁酒者 ($p < 0.05$) や大量飲酒者 ($p < 0.001$) よりも良好であった。MCI の診断を受けるまでに生涯アルコール摂取 300kg 以下であった者は、アルコールを生涯まったく摂取していないもの ($p < 0.05$) や生涯アルコール摂取が 300kg より多い者 ($p < 0.01$) に比べて、認知機能の低下が緩やかであった。MCI 診断 2 年後に大量飲酒者が認知症を発症するリスクは、禁酒者 ($p < 0.05$) や軽・中等度飲酒者 ($p < 0.05$) より高かった。</p> <p>結論： MCI 患者におけるアルコール摂取と認知機能低下との関係は J 型である可能性がある。MCI を有する高齢者において、軽・中等度飲酒はリスク低下と関連があるとおもわれる。</p>	